

ビジネスの手法・ものづくりの技術を用いた地域課題の解決

～高等学校OPENプロジェクトへの取組～
北海道留萌高等学校 学級数 16 (校長 間 義浩)

I 趣旨

本校は、平成30年度より北海道ふるさと・みらい創生推進事業「高等学校OPENプロジェクト」の研究指定を受け、「ビジネスの手法・ものづくりの技術を用いた地域課題の解決～関係人口の増加、継続的なふるさととの結び付きを目指して～」のもと、以前より情報ビジネス科で取り組んできた活動を基盤として、地域の方々と生徒との交流の場を設定した。また、関係機関の方々の尽力により、様々なつながりが生まれるとともに、3学科による全校的な「ルルモッペOPENプロジェクト」として地元留萌の地域振興と生徒のキャリア意識の向上のための取組を進めている。

II 実践内容

- 1 「地域みらい連携会議」及び「留萌の未来を支える人材育成会議」の設置
- 2 地域ビジネス創出事業（SBP）の取組
- 3 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」及び各学科の特色を活かした学科横断的な地域課題解決の取組
- 4 実践紹介及び紹介ビデオの制作による情報発信

III 実践の概要

- 1 「地域みらい連携会議」及び「留萌の未来を支える人材育成会議」の設置

地域との連携による実践活動を基盤として、地域の方々と生徒との交流の場として設定した中で、「一般社団法人未来の大人応援プロジェクト」（三重県）とのつながりが生まれ、地域のために教育実践を重ねている全国の高校生との交流が行われるようになった。

- 2 地域ビジネス創出事業（SBP）の取組

「一般社団法人未来の大人応援プロジェクト」（三重県）による、地域ビジネス創出事業（SBP）に取り組むこととなり、全国高校生SBP交流フェアに生徒が参加した。

- 3 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業及び各学科の特色を活かした学科横断的な地域課題解決の取組

平成24年度より道内高校の初の試みとしてはじめた小学生対象の職業体験「キッズビジネスタウン」をはじめとする「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」においては、事業所に対する興味・関心、就業することの重要性や責任感等を育ててきた。

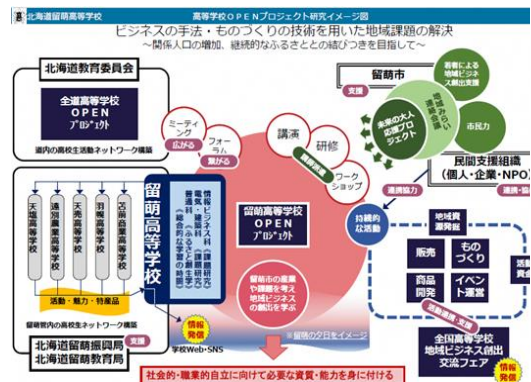
この事業を通して、情報ビジネス科による地元留萌のキャラクター「KAZUMOちゃん」を型取った「かずもちゃん焼き」（おやき）の商品開発、普通科による学校祭での留萌をテーマにしたポスターセッション、電気・建築科による留萌の保育間伐材を活用した木工品の製作や観光スポットに設置するモニュメントの制作など、全学科を巻き込んだ形で発展的な取組となっている。

これらの取組では、開発商品の販売方法やモニュメント設置場所について、外部の方々と意見交換会の際に生徒がプレゼンテーションを行い、提案が実際に採用された。その内容を年度末に行った「課題研究発表会」により全校生徒で共有することで、全校的な経験として積み重ね、次の取組に生かしてきた。

事業を進めるにあたり、これまで本校が先進的に行ってきた地域との連携事例の発信と道内外の高等学校との連携や他の組織との連携を充実させるとともに、地域創生に向けた学習活動を学科や学年の壁を越え、学科・教科等横断的で持続的な活動体制の構築を図られている。

- 4 実践紹介及び紹介ビデオの製作による情報発信

留萌地域のPR活動において、これまで留萌市等の関係機関との連携を図る場面が多かったことから、



【研究のイメージ図】



【SBP 交流フェア】

生徒一人一人が物事を広い視野で捉えることができるようになった。今年度については、留萌管内の高等学校の生徒たちの協力のもと、町の自慢や見どころについての情報提供を受け、留萌管内のよさを効果的に紹介する方法や、地元の方々に地元のよさを再発見してもらえる方法等を検討した。

「ふるさと留萌」「ふるさと北海道」の未来を創生していく視点で、これまでの実践紹介と留萌管内をアピールするための紹介ビデオを制作し、11月に開催された「高等学校OPENプロジェクト」全道ミーティングにおいて発表を行った。

また、管内の他校と連携した企画や地元ゆるキャラを使った取組紹介動画の制作など、生徒が学科や学年の枠を超えて協働する場面や課題解決に主体的に取り組む場面を設定し、全校的で学科横断的な取組を行っている。また、これらの取組の中で生まれたオリジナルキャラクターを活用した情報発信など、新しい企画も始動している。



IV 実践の成果と課題

1 成果

- (1) OPENプロジェクト事業を進める中で、生徒の地域に対する愛着が高まり、人とのかかわりの中で、積極性や自主性が高まった。
- (2) 活動報告や意見交換会などでのプレゼンテーション等を通じて、生徒が自分の考えや意見を発表する機会が増加し、相手に対して効果的に伝えるという視点や、試行錯誤を繰り返し、失敗を糧にする自信が生まれてきた。
- (3) 協力団体をはじめ、高校生に対する地域の意識も変化し、「子供たちに夢を託す」という思いが地域の中で起きているという声など、教育活動への期待も膨らんだ。
- (4) 本校での取組が留萌管内の自治体及び高等学校に広がり、地域連携のモデルとなっている。
- (5) 留萌管内における高等学校間のネットワークにより、さらに相乗効果が出ることが期待されている。

2 課題

- (1) 普通科、職業学科併置校のメリットを生かし、SBPへの取組及び成果を学校全体の教育活動に還元できる体制づくりを継続する必要がある。
- (2) 所属学科の専門知識や技術を系統的に学び、関連する学科の専門科目の知識や技術を、学科や学年・年次の枠を超えて知る機会として、課題研究発表会等にて全校生徒で共有する場面を設定し、一層の複合的な知識・技術の習得及び学科・教科等横断的に研究を実践していく必要がある。
- (3) 持続可能な取組として、目標や課題の設定、及び学科横断的な取組ができる組織づくりを継続する必要がある。
- (4) 本取組で構築した関係機関及び留萌管内高等学校との連携を、各校の学校力向上のひとつとして一層強固にする必要がある。

3 今後の検討

今年度重点的に実施した学校ウェブページやSNS等を用いた普及活動については、今後も定期的に地域での様々な成果発表や新聞各社、ラジオ局による活動報告や意見広告の作成及び模擬公聴会等での行政機関への提言等の機会を利用し、実施する。

「留萌の未来を支える人材育成会議」（民間支援組織）と、一体的・継続的な支援体制を今後も構築し、留萌市における地域ビジネス創出事業や地域活性化に関する講演や事業連携など、関係各所の支援を得て取組を推進する。

今年度で北海道ふるさと・みらい創生推進事業「高等学校OPENプロジェクト」が終了するが、先進的に行ってきた地域食材を活用した商品開発や、活動ネットワークの拡大及び社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力の育成を目的とした研究や実践などの取組は継続して行う。また、留萌管内における地域貢献活動において、地域との更なる連携、教科等横断的・持続的に行っていく仕組みづくりを通して、他校のプロジェクトを牽引・連携し、「ふるさと北海道」のよりよい未来づくりに向けて、取組の充実を図っていく。



【意見交換会】